

(1)保存地区の概要

地区名	渡名喜村渡名喜島
種別	島の農村集落
面積	21.4ヘクタール
選定年月日	平成12年5月25日

- 特徴** 渡名喜村は、那覇市の北西54キロメートルに位置し、渡名喜島と入砂島で構成される。集落があるのは渡名喜島である。
- 渡名喜島は台風の影響を受けやすい。そのため、屋敷地を道路面より下げて、テーブル珊瑚や珊瑚石灰岩の石垣などで囲み、内石垣との間にフクギを植えて屋敷林としている。この屋敷林は防風だけではなく、防火の役割も果たしている。
- 屋敷地の中央部には、寄棟造赤瓦葺の主屋が置かれ、その周りに物置やフル(飼育小屋兼便所)などの附属屋が置かれる。
- 島の平地全体が砂地であるため、道路は白砂のままで、T字の突当りには魔除けの石敢當やチキシ(カ石)が置かれ、石垣や屋敷林、赤瓦の屋根などが一体となって、地域的特色が豊かな美しい町並みを形成している。



(2) 重要伝統的建造物群保存地区の選定までの歩み

- 平成7年 1995
 - 文化庁による集落視察
 - 村議会で「伝統的建造物群保存活用」について説明
 - 村議会議員, 村教育委員会委員が合同で竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区を視察

- 平成9年 1997
 - 伝建地区地域説明会(全3回)及び沖縄本島在住者に対する説明会
 - フィンランド・ヘルシンキ工科大学の研究者による民家調査

- 平成10年 1998
 - 京都大学名誉教授, 琉球大学助教授による集落視察
 - 伝統的建造物群保存対策調査開始

- 平成11年 1999
 - 文化庁による現地調査及び住民との懇談会
 - 渡名喜村歴史的景観保存条例及び同施行規則を制定
 - 渡名喜村渡名喜島伝統的建造物群保存地区の決定

- 平成12年 2000
 - 渡名喜村歴史的景観保存計画の告示
 - 渡名喜村渡名喜島伝統的建造物群保存地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定
 - 伝統的建造物群保存地区保存整備事業に着手

(3) 保存修理の実施状況

